

令和元年度那珂川流域アメリカミンク生息状況調査結果（概要）

令和2年3月 栃木県環境森林部自然環境課

1 調査の目的

栃木県においては、平成30年7月に大田原市寒井地内で轢死体1頭が発見されたことにより、初めて特定外来生物アメリカミンクが確認された。その後、平成31年3月までに、那須塩原市那須野が原博物館と栃木県が協力してアメリカミンク轢死体発見場所付近の那珂川の上下流（那須塩原市鳥野目から那珂川町小口まで）において、センサーカメラによる調査を実施したところ、複数回アメリカミンクが撮影された。また、那珂川に合流する余笹川、黒川においてもアメリカミンクの見撃情報があった。

このため、那珂川流域におけるアメリカミンクの侵入範囲を把握することを目的としてセンサーカメラによる調査を、生息密度の推定及び捕獲個体の分析により繁殖状況を把握することを目的として捕獲調査を行った（図1）。

2 生息範囲把握調査

(1) 調査方法

那須塩原市鳥野目から那珂川町小口までは、平成30年度にセンサーカメラによる調査によりアメリカミンクの存在が確認されている。このため、令和元年度は、これまで調査を実施していない那須郡那珂川町から芳賀郡茂木町までの那珂川の河川区域内でセンサーカメラによる調査を行った（図1）。センサーカメラはBMC SG562-Dを使用し、那珂川町小口、那珂川町北向田、那珂川町富山、那須烏山市城東、那須烏山市宮原、那須烏山市野上、茂木町大瀬、茂木町飯野にそれぞれ1台ずつ計8台をいずれも河川の水際に設置した。那珂川町小口においては、平成30年度の調査でアメリカミンクと考えられる動物が撮影されたが不鮮明であったため、再度調査地に含めた。記録は静止画で行い、撮影間隔は3分に設定した。約1ヶ月ごとに記録メディアと電池の交換を行った。センサーカメラの設置期間は、那珂川町小口が令和元年11月14日から令和2年1月24日まで、それ以外の箇所は令和元年11月12日から令和2年2月28日までとした。

(2) 調査結果

那珂川町小口で令和元年11月30日に1回、那珂川町北向田で令和元年11月24日に1回アメリカミンクが撮影された。那珂川町富山から下流では、アメリカミンクの撮影はなかった。

このため、現段階で栃木県においてアメリカミンクが生息しているのは、北から那須郡那須町、那須塩原市、大田原市、那珂川町の2市2町であると考えられる。

本調査は那珂川の本流のみで行ったが、アメリカミンクは水辺を中心に他の環境にも幅広く生息可能であるといわれていることから、那珂川の支流及び水路等において

も生息している可能性がある。

3 アメリカミンク捕獲調査

(1) 調査方法

栃木県的那珂川流域において、目撃情報や足跡や糞などの痕跡が比較的多く得られている余笹川及び黒川の合流付近の河川敷内で、小型の箱わなによるアメリカミンクの捕獲調査を行った(図2)。小型箱わなは、ハバハートケージトラップ 1078 及び 1089 をそれぞれ 10 基ずつ合計 20 基使用した。除去法で生息密度の算出をするために、わなの設置にあたっては、水際の哺乳類の痕跡(足跡や糞)が多く確認された箇所で 4.7km の範囲に 185~355m の間隔で 20 箇所選定し、1 箇所に 1 基の小型箱わなを設置した。捕獲調査は、令和 2 年 1 月 14 日から令和 2 年 1 月 30 日まで実施した。

(2) 調査結果

令和 2 年 1 月 22 日にアメリカミンク 1 頭が捕獲された。これ以外には、イタチが延べ 15 頭捕獲された。

生息密度については、捕獲頭数が 1 頭であったため累積捕獲数の値が得られず適切な算出は行えなかった。

しかし、捕獲数が 1 頭と少なかったこと及びイタチが多数捕獲されておりイタチがアメリカミンクに排除されていないと考えられることから、本調査地のアメリカミンクの生息密度は、既往事例の福島県阿武隈川の生息密度 3~5 頭/km と比較して、相対的に低いと推察する。

繁殖状況について、捕獲個体 1 頭及び捕獲実施箇所において令和元年 7 月 4 日に拾得された死亡個体の分析を行った。捕獲個体は成獣オスであった。拾得個体は成獣メスで乳頭肥大が見られたことから、那珂川流域においてアメリカミンクが繁殖している可能性が高いと考えられる。

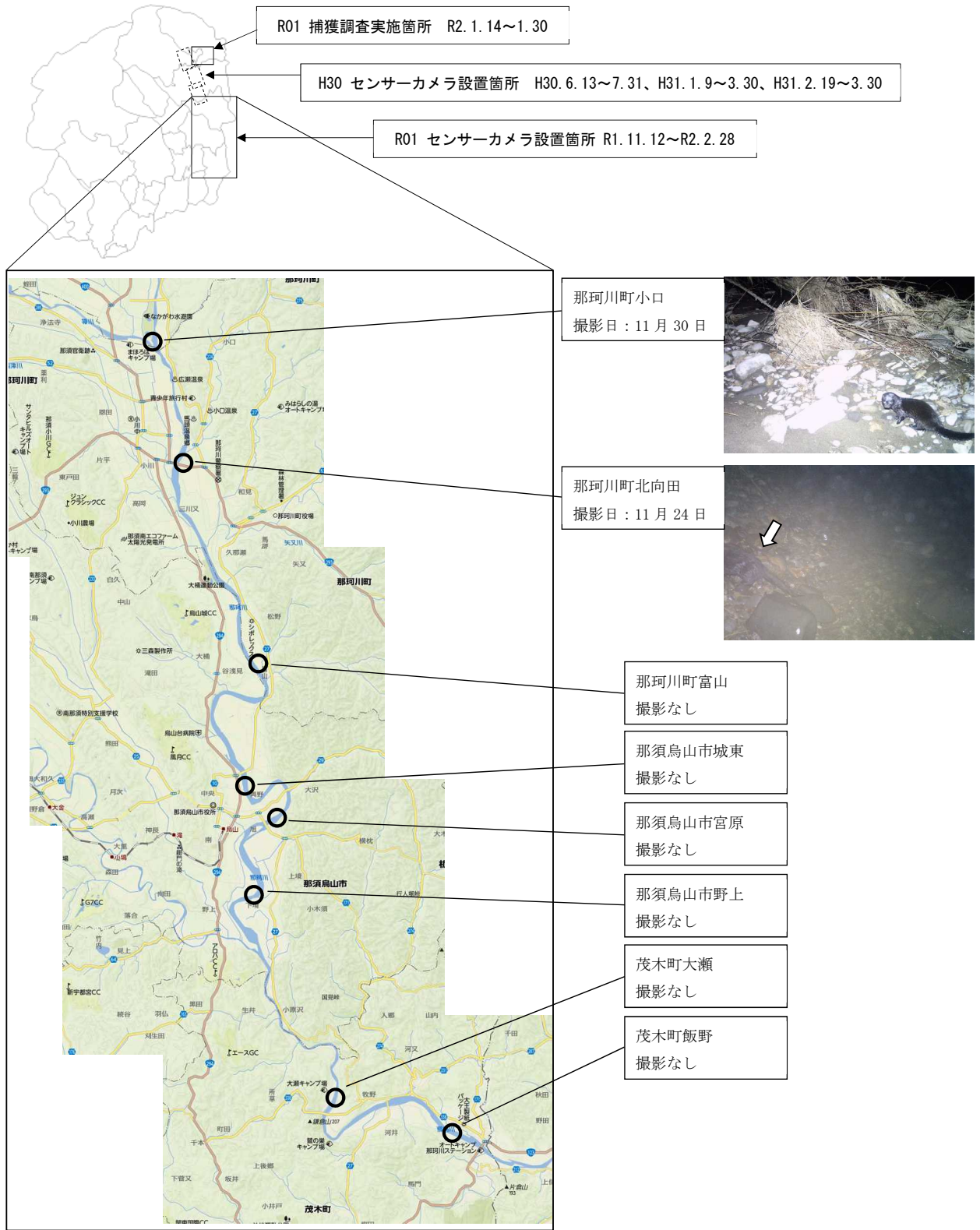


図1 アメリカミンク生息状況調査位置図

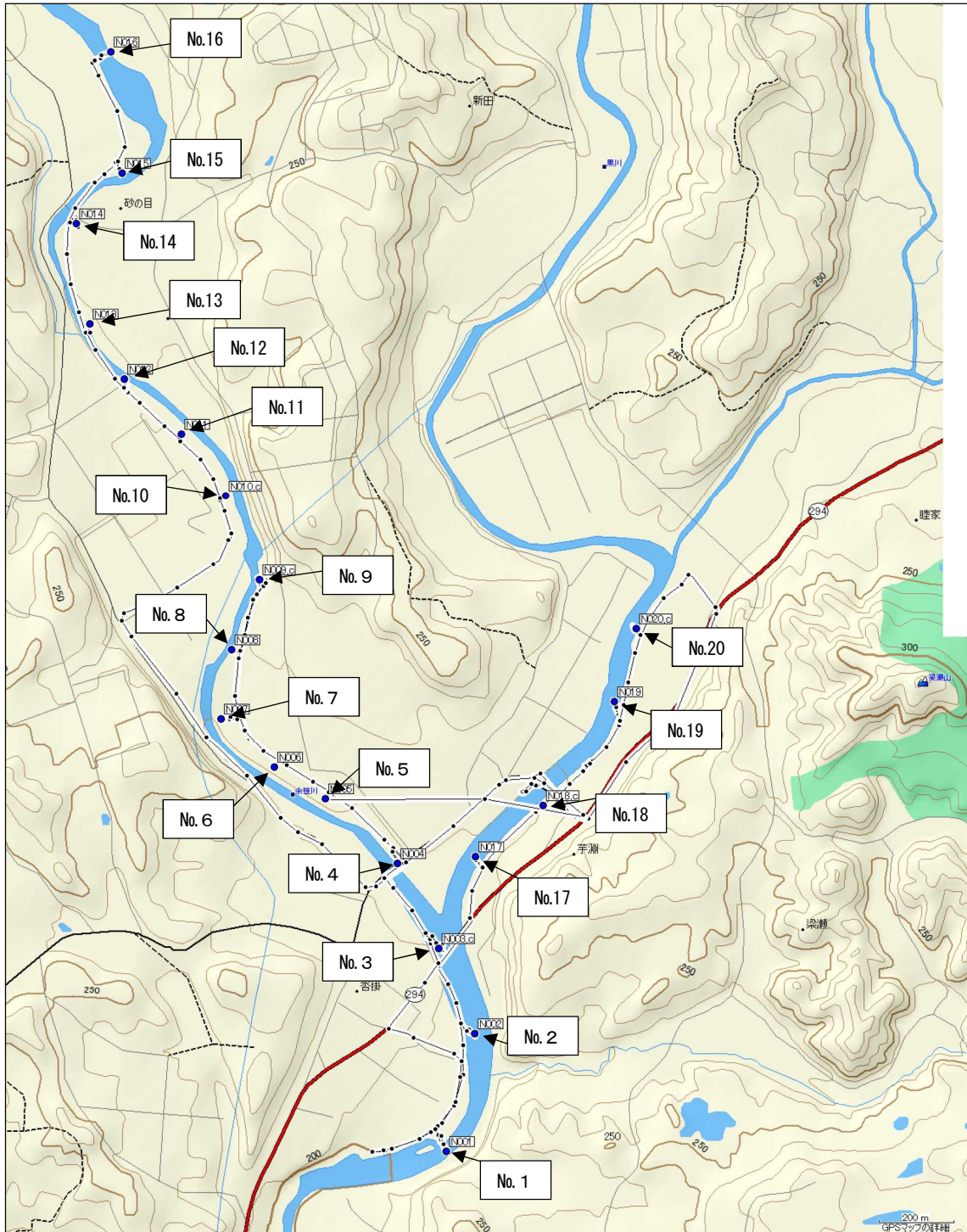


図2 アメリカミンク捕獲調査位置図